

2023年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
33501	住まいの文化 House and Culture	倉橋 友行		専門	2	選択	1.2前期
科目の概要							
生活の器である住居は、長い歴史の中で、地域の風土や社会のあり方を反映して発展してきた。住居の有り様は、そこで展開される個人・家族の生活の現れであるとともに、社会の現れでもあり、それゆえ文化の現れでもある。わが国の住まいの文化はどのように継承され、変化してきたかを学び、将来のよりよき住まい方につなぐ方途を明らかにする。この授業では、住まいにおけるライフスタイルを自らデザインできるように必要な専門的知識を修得し、活用できる能力を身につける。							
学修内容				到達目標			
① 住居の基本的知識を習得する。 ② 歴史的、空間的に比較することで、わが国の住まいの特徴的な文化を学ぶ。 ③ 住まいで受け継がれてきた文化の背景となる風土・環境・社会の有り様を知り、いかに将来につないでいけるかを考える。				① 住居の基本的知識を獲得している。 ② わが国の住まいの文化について、その特徴や形成要因を適切に説明できる。 ③ 住まいの文化をどのように生活に活かし、将来につないでいくべきかについて自らの意見を述べることができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	日本の住まいの文化を知るという目標に向かって、教科書や講義を基礎に、自らすすんで自己学習を進めていくことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	実物を観察する、資料を収集する、問いかける、議論するなど、能動的に取り組みつづけることができる。					
考え抜く力	課題発見力	事象の背景にある脈絡や関係性について、常に「なぜ」と問いかけ、より高次のステップを目指すための課題を見つけることができる。					
	計画力						
	創造力	事象を理解し、知識を習得することを通じて、さまざまな知識を有機的に関連づけられるような、自らの知のフレームを創り上げるよう努力できる。					
チームで働く力	発信力	学習の過程で抱いた疑問や知見を、より広い文脈の中に位置付け、ポイントを適確に示しつつ要領よく発信することができる。					
	傾聴力	人の意見に対して、真摯に受け止めようとする態度をもって耳を傾けるとともに、その意見への賛否を応答し、発展的な議論となるように展開することができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：使用しない。必要な資料は授業内で配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。 参考書：授業内で適宜紹介していく。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：住宅管理、インテリアデザイン、インテリアエレメント、環境デザイン 資格との関連：インテリアコーディネーター							
学修上の助言				受講生とのルール			
授業の内容を、つねに自分の住まいや住まい方と結びつけながら考え、理解するように取り組んでほしい。				各回の授業の終了時に、次回授業の資料を示すので、事前に調べてくること。 また、授業内で紹介する参考文献についても積極的にあたってほしい。 6回以上の欠席（遅刻は3回で欠席1回分とする）は科目放棄として扱う。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
		レポート		40	①	✓	
					②	✓	
③					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			50	①	✓		
				②	✓		
	③			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合			100				

以下の点についての理解を確認するための筆記試験を行う。用語や数値等を単に暗記しているだけでなく、その意味が正しく理解されているか、自分の言葉で説明できるかを問う。
 ・現在の日本の住様式を伝統的な特徴と比較し説明できる。
 ・快適な生活を送るために住宅に必要とされる条件を環境や社会との関係から説明できる。
 ・安全性を保证するために住宅に必要とされる条件を説明できる。
 ・これからの住宅のあり方を環境への配慮や多様な生活スタイルとの関係から説明できる。
 40=10点×4回

成果発表（各授業後半にて作図実習）※筆記試験の代わり
 ・住空間を条件の中で考察し、作図し、提案するまでの総合点として評価します。
 ・作業図面・プレゼン資料を丁寧に仕上げ、的確に表現し発表できているのかを評価します。

(主体性)
 ・実際の住まいや資料などを通じて、授業・教科書での学習内容をより深めることができる。
 (実行力)
 ・知識の獲得・深化のために授業以外への学習行動に取り組むことができる。
 (課題発見力)
 ・講義での質疑応答やレポート課題において、常に問いかける視点をもつことができる。
 (創造力)
 ・テーマ毎の学習内容の関連を考え、多面的な見方と、総合的なとらえ方をすることができる。
 (発信力)
 ・ポイントや結論を明確に示し、わかりやすい表現で意見を述べることができる。
 (傾聴力)
 ・話し言葉や書き言葉の内容を理解し、加えてその文脈にも思いをめぐらすことができる。
 (規律性)
 ・遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポートを行う。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>①住居と文化について習得した基本的知識を元に、その文化が形成された背景の要因やその影響についても説明できること。</p> <p>②これに基づいて将来のより豊かな住生活についての意見を、多様な住み手のあり様を含めて、明確に表明できること。</p> <p>S (秀) = ①+②、A (優) = ①</p>	<p>①住居と文化についての基本的知識が確実に習得されていること。</p> <p>②これに基づいて自らの将来のより豊かな住生活についての意見を明確に表明できること。</p> <p>B (良) = ①+②、C (可) = ①</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	はじめに／ウチとソト「住む」という生活行為について考える。	講義 質疑応答	衣生活・食生活と比較しながら「住む」ことについて考えられる。	予習) シラバスを読み、科目概要を理解しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	住まいを記述する設計図書の種類と図面の読み方について学ぶ。	講義 演習 質疑応答	簡単な平面図を読むことができる。	(予習) 配布された資料を読んで、第2週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。身近にあるさまざまな間取り図を読んでみる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	伝統的な住まい風土、文化と住まいのかたちの関係について考える。 近代以降の住まいの特徴について知る。	講義 質疑応答	世界各地のヴァナキュラーな住宅の事例に関心を持てる。 近代以降の住まいの変化を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第3週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。その他のヴァナキュラーな住宅の事例を調べる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	日本の住まい(その1)／日本の住まいの特徴) 日本の風土、文化と住まいのかたちの関係について考える。 伝統的な住まいの特徴について知る。	講義 質疑応答	日本の伝統的な住まいの特徴について説明できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第4週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	日本の住まい(その2)／住まいの近代化①) 明治期以降の住宅改善の流れを辿る。	講義 質疑応答	社会の近代化と関連付けながら住生活の変化を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第5週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	日本の住まい(その3)／住まいの近代化②) 戦後のnLDKの成立までの流れを辿る。	講義 質疑応答	戦後の家族像と関連付けて住生活の変化を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第6週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	日本の住まい(その4/まとめ)	講義 質疑応答	前2回の講義内容を含め理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第7週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業内容からレポートを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	ヒトとすまいのスケール(その1) 住まいの大きさと人体寸法の関係について考える。	講義 質疑応答	住まいの大きさと人体寸法の関係性が理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第8週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	ヒトとすまいのスケール(その2) 住空間のスケールを決定する様々な要因について考える。	講義 質疑応答	自分の身の回りのモノや空間のスケールが理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第9週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	住まいの計画 間取りの基本について知る。	講義 質疑応答	生活や家族の形態との関係から間取りの類型を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第10週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	安全な住まい 家屋の構造の種類とそれぞれの構造の特徴を学ぶ。	講義 質疑応答	家屋の構造の種類とそれぞれの構造の特徴を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第11週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	快適なすまい 快適に住むために必要とされる条件について考える。	講義 質疑応答	外部環境制御と内部環境調整から快適な住まいを理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第12週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	ヒトの寿命と住まいの寿命	講義 質疑応答	家族や住まいを経時的に変化するものとして捉え、そこで発生する問題への対応を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第13週の授業内容を確認しておく。 (復習) 授業ノートを整理する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	住まいに関する規定 住まいに関する法的基準、規定について学ぶ。	講義 質疑応答	「単体規定」と「集団規定」それぞれの意味を理解できる。	(予習) 配布された資料を読んで、第14週の授業内容を確認しておく。 (復習) これまでの授業内容からレポートを作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	これからの住まい 生活スタイルの多様化に対応した住まいのあり方を知る。 建築家たちによる住まい方の提案の事例について知る。	グループディスカッション/プレゼンテーション/講評	これからの家族やコミュニティのあり方について考えられる。	(予習) 配布された資料を読んで、第15週の授業内容を確認しておく。 (復習) これまでの授業内容を復習し、期末試験のための準備を行う。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力